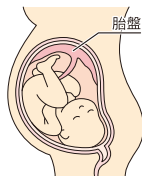


## プラセンタって、どういうもの？

### プラセンタとは……

プラセンタ（Placenta）とは哺乳動物の「胎盤」のことですが、医療や医薬品の世界では、この英語の呼び方の方が広く使われています。

胎盤は、母親の子宮の中に着床した受精卵が胎児として大きく育っていくとき、母体と赤ちゃんをつなぐ「臨時の臓器」としてつ



くられ、出産が終わるまで働き続けます。この胎盤に、胎児は「へその緒」で結ばれ、成長するのに必要な全ての栄養や酸素を受け取り、反対に排泄物を母親の体に渡しなが

ら、どんどん成長していきます。胎盤の働きはこれだけでなく、ホルモンや生理活性物質、各種の成長因子など全てを胎児に供給し、さらに毒物や異物の侵入から胎児を守る免疫機能も果たすのです。

### 薬やサプリメントとして活躍

目に見えない小さな受精卵を、わずか10ヵ月で平均3kgもの赤ちゃんにまで育て上げる胎盤の働きに着目し、その成分を活用するために開発されたのが、医薬品やサプリメントなどのプラセンタ製品です。

わが国で注射薬とサプリメントが相次いで完成したのは戦後間もない頃でしたが、やがて訪れた新薬ラッシュに押されてなかなか表舞台に立てませんでした。しかし状況が変わり新たに統合医療が台頭するとともに、有効範囲の広いプラセンタが一気に注目されるようになったのです。

そして現在一誰もが若々しくありたいと願い、体にやさしい全身的な医療が求められる中で、プラセンタの優れた特性がいよいよ評価を高めつづけています。

### 古くから世界中で使われてきたプラセンタ

胎盤を利用する歴史は古く、中国では「紫河車」という名前前で約4千年前から、産後の回復や滋養強壮、末期の蘇生薬として使われてきたということです。ヨーロッパでも紀元前4世紀に、「医学の父」と呼ばれるヒポクラテスが胎盤の利用について書き残しています。

人々が古くから胎盤に注目したのは、草食・肉食動物を問わず出産後の動物たちが胎盤を食べてしまうのを見て、その有効性に気づいたためと考えられています。

## プラセンタ注射をする用量と回数？

治療目的や重症度により変わりますが、注射の場合は次の用法・用量が基本になります。

### 用法・用量の基本

- 保険診療の場合：添付文書に従うこと。通常1回1A（アンプル）を週2回、皮下注射する。重症であれば週3回。効果が見られるまでに3～6ヵ月かかることが多い。
- 自由診療の場合：用量は症状により1A～10Aの範囲で適宜増減し、上腕外側か臀部に注射する。個人差があるが5A以上注射するときは、両上腕や両臀部など2カ所に分ける。

### 効果を高める注射の打ち方

最初の3ヵ月は治療間隔を短くした方が、効果を実感しやすい。

週2回通院可能	→ 1回2～3A
週1回通院可能	→ 1回3～4A
10日～14日に1回通院可能	→ 1回4～6A
3週間に1回通院可能	→ 1回6～8A
1ヵ月に1回通院可能	→ 1回8～10A

※この治療頻度を、効果が見られるまで継続する。その後に治療頻度を減らすことも可能。

### 治療目的による注射・通院の目安

疾患名	通院頻度	期間の目安
更年期障害・乳汁分泌不全	週1～2回（重症度に応じる）	3～6ヵ月
月経困難・月経不順	週1～2回	3～6ヵ月
花粉症	週1回	3ヵ月
アトピー性皮膚炎	週1～2回（重症度に応じる）	3～12ヵ月
気管支喘息	週1～2回（重症度に応じる）	3～12ヵ月
慢性肝炎	週1～3回（重症度に応じる）	6～12ヵ月
関節リウマチ	週1～3回（重症度に応じる）	6～12ヵ月
抗疲労効果	適宜	6～12ヵ月

監修：長瀬真彦（吉祥寺中医クリニック）

# プラセンタ療法

## をご存知ですか？

プラセンタは  
新陳代謝を活発にし、  
自然治癒力を高めます。

受付時間	月～金曜日	午前 8:30～11:30 午後 2:00～6:00
	土曜日	午前 8:30～11:30
休診日	土曜日の午後、日曜日、祝日	



TEL. 0173-35-6060

五所川原市姥苅船橋246-1

すとうmriクリニック

● WEBから予約が取れます。 ● 予約しなくても受診可能です。

当院では適切な用量・用法を検討し、無理なく正しい治療を実施しています。お気軽にご相談ください。

## 自然治癒力を高める

プラセンタが医療現場で幅広く用いられる最大の理由は、「自然治癒力」の強化にあります。

人体は軽い傷を負ったり、風邪を引いたり、疲労困憊して精神的に落ち込んでも、時間が経つと回復します。このとき私たちの体内で働いている力が「自然治癒力」です。

ところがこの力が衰えてくると回復が遅れ、病気や体調不良の状態が長引き、ついに大事に至ることにもなりかねません。

プラセンタはその「自然治癒力」を強力に後押しし、自分の力で病気や身体の不調を慢性化させないように働いてくれる「自然薬」として注目を集めているのです。

## プラセンタは用途が広い

普通に使われている医薬品は、何か特定の病状を抑えるために使われます。ですから例えば頭痛薬を、下痢や花粉症や夜尿症などに使うことはしません。ところがプラセンタは右の一覧表にあるように、数えきれないほどの病気や症状に使って効果を発揮しています。

その不思議さも、「自然治癒力」を念頭に置いて考えれば